

平成25年度 全国学力学習状況調査の結果について

萩市教育委員会 平成25年11月7日

平成19年度から毎年4月に実施されております「全国学力・学習状況調査」は、今年度は4年ぶりに全小・中学校が対象となり、4月24日（水）に実施しました。各校は、児童生徒の学力を把握するとともに全体的な課題を分析し、指導改善に生かしています。

萩市教育委員会としましても、萩市全体の傾向や課題を下記のように分析し、今後適切な支援をしていきたいと考えています。

◆萩市としての傾向

1 小学校 【国語】 ○ 良好 ● 課題

- 漢字を正しく読んだり書いたりすること。
 - 広告を読み、編集の特徴を捉えること。
 - 相手の立場や状況を感じ取って聞くこと。
 - 文の定義を理解すること。
 - 話し手の意図を捉えながら聞き、適切に助言すること。
 - 文と文の意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書くこと。
 - 目的や意図に応じ、複数の内容を関係付けながら自分の考えを具体的に書くこと。
- 問題例1（国語B）

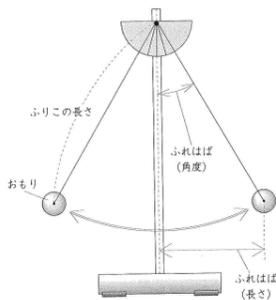
【算数】 ○ 良好 ● 課題

- 同分母の分数の加法の計算をすること。
- 割合が100%を越えるとき、基準量と比較量の大きさの関係を理解すること。
- 示された情報から二つの要素の意味を解釈し、ものの位置を特定すること。
- 小数第2位までの加法の計算をすること。
- 1a（1アール）の面積と等しい正方形の一辺の長さを理解すること。
- 台形の面積の求め方を理解すること。
- 表から数値を適切に取り出して、二つの数量の関係が比例の関係では無いことを記述すること。 → 問題例2（算数B）

●問題例2（算数B）

2

ゆきこさんは、ふりこの実験を3つします。
実験では、ふれはばは変えないで、ふりこの長さとおもりの重さを変えたときに、ふりが10往復する時間がどのように変わるかを調べます。



(3) 実験3では、おもりの重さを40gにもとし、ふりこの長さを変えて10往復する時間を調べ、下の表にまとめました。

ふりこの長さ (cm)	25	50	75	100
10往復する時間 (秒)	10	14	17	20

この結果から、次のことがわかります。

ふりこの長さを2倍に変えたとき、10往復する時間は2倍になっていないので、ふりこの長さとおもりの重さは比例していません。

「ふりこの長さを2倍に変えたとき、10往復する時間は2倍になっていない」ことを、上の表の中の数と言葉を使って書きましょう。

(解答例)
ふりこの長さが25cmから50cmと2倍に変わったとき、10往復する時間は10秒から14秒で、2倍になっていないからです。

●問題例1（国語B）

【下書きの一部】※一人一人が分担して書いた内容を一枚に構成したもの

※ここから読み始めましょう。

1 打ち上げ花火の歴史

[1613 (慶長18) 年]
中国人が打ち上げた花火を、徳川家康が見物した。

[1733 (享保18) 年]
東京の隅田川で、花火が打ち上げられた。

A
[1879 (明治12) 年ごろ]
海外から強素酸カリウムなどが輸入されるようになった。

[1910 (明治43) 年]
事故防止のため、花火の製造と打ち上げに、めん許や許可を必要とする法りができた。

1ページ

2 打ち上げ花火の種類

打ち上げ花火は、「曇花火」と「夜花火」に分けられる。「曇花火」は、行事などの開始の合図として打ち上げられる。「音物」が多い。「夜花火」は、大きく「わり物」「ボカ物」に分けられる。「わり物」は代表的な打ち上げ花火で、破れつした時に星が球状に飛び散るものである。「わり物」の中には、「キク物」や「ボタン物」などがある。

← [キク物]
星がさくの花のようになり、おを引いて広がるもの。

← [ボタン物]
星がぼたんの花のようになり、おを引かないもの。

現在における打ち上げ花火の特長として、「型物」の開発が進んでいることが挙げられる。「型物」とは、あるものの形になって星が飛び散るもので、最近では土星や人の顔の形などになるようにくふうされている。

2ページ

3 花火師の小野さんの声

ア いろいろな苦労をこえて

小野さんは、「
B
」と話していました。花火の打ち上げのうらには、花火師さんのいろいろな苦労があることを初めて知りました。

イ つくり出す伝統

小野さんは、「現在、花火の色として、水色やピンク色などの中間色も使ったカラフルな花火を作っています。また、音楽に合わせて花火を打ち上げるなどの新しいこともしています。」と話していました。

3ページ

4 まとめ

打ち上げ花火は、およそ400年もの歴史をもった、日本のすばらしい伝統といえます。

C

あとがき

打ち上げ花火の歴史や種類、花火師さんたちの苦労を知ることによって、夜空にかがやく打ち上げ花火が、今以上に美しく見えるにちがいないと思います。打ち上げ花火のことを調べて、日本の伝統のわざと心にふれることができました。

4ページ

【編集会議での町田さんと山下さんの意見】

町田さん 「4 まとめ」には、題名「打ち上げ花火の伝統」に合う内容を書いたほうがいいと思うわ。書き出しの文（「打ち上げ花火は、…伝統といえます。」）は、「歴史」に注目し、「1 打ち上げ花火の歴史」の内容をまとめてあるわね。

山下さん それに続く内容は、「現在」の打ち上げ花火に注目し、「2 打ち上げ花火の種類」と「3 花火師の小野さんの声」の「イ つくり出す伝統」の中に書かれている。現在における打ち上げ花火の形や色、打ち上げるときのおもりのくふうを取り上げて書いたほうがいいね。そして、最後に考えたことをまとめて書いてらどうか。

打ち上げ花火は、およそ400年もの歴史をもった、日本のすばらしい伝統といえます。

◆

80字

100字

※上の原稿用紙は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。
※◆の印から書きましょう。どちらゆうで行を変えないで、続けて書きましょう。

三 今村さんたちは、「4 まとめ」の意見を受け、書き出しの文に続く内容に考えました。かどの条件に合わせて書きましょう。

(解答例)
現在では、型物の開発が進んでいます。また、中間色も使ったカラフルな花火を作ったり、音楽に合わせて打ち上げたりしています。長い伝統を受けつぎ、新たなことにちよう戦する花火師さんたちの思いに感動しました。(百字)

2 中学校 【国語】

○ 良好 ● 課題

- 文脈の中における語句の意味を理解すること。
- 文章の展開に即して内容を捉えること。
- 表現の仕方に注意して読み、その効果を考えること。
- 文の意味を考えて適切な語句を選択すること。
- 比喻を用いた表現について理解すること。→ 問題例1 (国語A)
- 図と文章との関係を捉えること。
- 課題を決め、それに応じた情報の収集方法を考えること。
- 漢字の特徴を捉えて、自分の考えを具体的に書くことができる。
→ 問題例2 (国語B)

【数学】

○ 良好 ● 課題

- 与えられた図形の拡大図を書くこと。
- 与えられた一次関数の式について、xの値に対応するyの値を求めること。
- 与えられた表から必要な情報を適切に選択し、処理すること。
- 数量の関係や法則などを文字式で表すこと。
- 与えられたヒストグラムについて、ある階級の相対度数を求めること。
- 事象を理想化・単純化して、言葉で表現された事柄の数学的な意味を的確に捉え、他の事象との関連を考えること。→ 問題例3 (数学B)

◆ 実際の問題例

○ 問題例1 (国語A)

さくら さくら
 さくら さくら
 野山も 里も
 見わたす かぎり
 かすみか 雲か
 朝日に にほふ
 さくら さくら
 花ざかり

— 線部「かすみか 雲か」とありますが、ここで「かすみ」や「雲」のように見えたものは何ですか。本文中から探し、抜き出さない。

(答え) さくら

● 問題例2 (国語B)

三 「新聞記事」を読んだり「資料」をまとめたたりした小川さんは、間違えやすい漢字を取り上げ、学習する際の注意点やコツを中一学年に説明することになりました。あなたならどのように説明しますか。「間違えやすい漢字の例」を次のA、Bから一つ選び(どちらを選んでもかまいません)、それを学習する際の注意点やコツをあなたの条件1から条件3にしたがって書きなさい。なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

〈間違えやすい漢字の例〉

A 拾・捨

B 厚・熱

条件1 選んだ「間違えやすい漢字の例」について、二つの漢字の共通点や相違点など漢字の特徴を取り上げて書くこと。
 条件2 条件1に応じて、二つの漢字を学習する際の注意点やコツを具体的に書くこと。
 条件3 七十文字以上、百文字以内で書くこと。

(解答例) 「厚」と「熱」は、訓読みは同じだが、意味の異なる漢字である。二つの漢字を間違えずに使うためには、それぞれの漢字を使った熟語を辞書で複数調べ、意味を確認しながら学習するとよい。

数学B【問題例3 続き】
 (3) 優子さんは、年齢が高くなると目標心拍数がどう変わるかを調べてみたいと思い、安静心拍数が年齢によらず一定であるとして考えてみました。このように考えると、目標心拍数は年齢とともに変わることになります。この代わり方について、下のア、イの中から正しいものを1つ選びなさい。また、それが正しいこと理由を、前ページの目標心拍数を求める式をもとに説明しなさい。
 ア 年齢が高くなると、目標心拍数は大きくなる。
 イ 年齢が高くなると、目標心拍数は小さくなる。

● 問題例3 (数学B)

1 優子さんは、運動不足のお父さんにウォーキングを勧めようと考えています。そこでウォーキングについて調べたことを、次のようにまとめました。

ウォーキングで運動不足を解消!
 目標心拍数を決めて、よい歩き方をしましょう!
 <歩き方のポイント>

<歩くペースの決め方>
 ① ウォーキングを行う際の目標心拍数を、次の式で決めます。

$$\text{目標心拍数} = 88 - 0.4 \times (\text{年齢}) + 0.6 \times (\text{安静時心拍数})$$
 「安静時心拍数」は、安静にした状態で、手首の脈拍数を1分間数えて求めます。
 ② ウォーキング中に安全なところで立ち止まり、1分間の脈拍数を数えます。運動中の脈拍数が「目標心拍数」を超えないようにすることがポイントです。
 【注意】 目標心拍数はあくまでも目安です。実際に運動を行う場合は、その日の体調や気分にも十分注意してください。

(1) 優子さんは、まず自分の目標心拍数を計算してみました。優子さんは15歳です。安静心拍数を求めたら80でした。優子さんの目標心拍数を求めなさい。

(答え) 130

(2) 優子さんのお父さんとお母さんは、二人とも45歳です。ある日の二人の安静時心拍数を求めたら、その差は10でした。このとき、二人の目標心拍数の差を求めなさい。

(答え) 6

(解答例) イ 安静時心拍数が年齢によらず一定なので、年齢をx、目標心拍数をyとしたとき、yはxの一次関数であり、xの係数が負であるから、年齢が高くなると、目標心拍数はいつも小さくなる。